

平成21年8月7日

株主、投資家の皆様へ

フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光

本日、第3四半期の決算を発表いたしました。業況のご説明は本決算時の説明会において詳細に行わせていただくこととし、本四半期の状況は書面にてご報告させていただきます。

今期、当社が為すべきは「収益力の回復」「リスクアセットの処理」「財務リスク・資金繰り対応」という3つの課題への対応、と期首より掲げ、その遂行に全社注力しております。

特に、第2四半期においては、昨年後半以降底打ちの兆しすら見えなかった不動産市況を勘案し、思い切った損失処理を断行。一方で、財務面ではユーロ円CBの市場からの買入を実施、約100億を消却しました。この結果、損益計算書、バランスシートともに大きな影響を与えたものの、「リスクアセットの処理」に目処がつき、また財務リスクも大きく圧縮することができました。また、収益面でも、既存マーケット、派生した新たなマーケット、来期に向けた基盤作りと、それぞれに進むべき道筋がはっきりと見えてきたことに成果を感じておりました。

本第3四半期も、引き続きこの3つの課題への対応に全力を注いでおり、着実な進捗を刻んでおります。

まずリスクアセット処理については、既に第2四半期までに目処をつけており、現在は担保物処分及び引当済み債権等の回収に主軸を移しつつあります。また財務面及び資金繰りも、4月17日にユーロ円CB約40億円を追加消却し、CBの残高は80億円まで圧縮されております。

一番の肝は、やはり「収益力の回復」。既存マーケットにおいては、未だ混迷の渦中にある金融環境を背景に、リファイナンスのアレンジメントや財務リストラクチャリングのアドバイザー、業務提携など実績の積み上げに注力しており、また新規マーケットとしては、アセットマネジメント会社を子会社化、投資案件の取得売却及びバリューアップ・管理に加えファンドの運営管理まで、一連のアセットマネジメント機能を新たに備えることで、より幅広い顧客のニーズに応える体制を整えました。さらに次期に向けた基盤づくりとして、公共財関連ビジネスにかかる新規子会社を設立、既存子会社のパブリック・マネジメント・コンサルティングによる公会計コンサルティングに加え、調査・分析業務の受託から公共財に係るファイナンス・スキームの提供まで幅広く行うことで、地方自治体の財政健全化への取り組みをサポートすべく、既に各自治体への提案活動を開始しております。また、グループ各社も、それぞれが堅調に事業推進しております。

このように、一步一步、着実に前進している状況ではありますが、成果としてはまだまだ道半ば。まずは期末まで、そして第16期の再成長を見据え、引き続きグループ全社、全役職員がベクトルを一つに、確乎不動の精神で漸進してまいりたいと思っております。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後ともご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。